

令和7年度孤立集落状況把握・支援訓練 (奈良県上北山村・内閣府)

実施報告書 (概要版)

奈良県上北山村について

- 奈良県上北山村は、奈良県の東南地域に位置し、東に大台ヶ原山地、西に世界遺産「大峯奥駈道」を有する大峯山脈に挟まれた山村である。
- 人口は414人(令和8年1月時点)であり、面積は約274km²、そのうち約97%が山地によって占められ、平地が極めて少ない地形となっている。
- 村の中央部を南流する北山川に沿って国道169号が村を縦断し、集落は北山川と小椽川に沿って、河合、小椽、白川、西原の4集落が点在する。

主な被害想定

- 特に被害の大きいとされている中央構造線断層帯による地震の被害想定は震度6弱である。
- 河合、小椽、白川、西原の各集落において、急傾斜地の崩落又は土石流の土砂災害警戒区域が指定されている。



訓練概要

- 訓練想定：最大震度6弱の巨大地震発生により、白川地区に通ずる道路で土砂崩れが発生したことに加え、白川大橋が崩落、さらに市街地からの経路が寸断し、徒歩でも通行が不可能な状態となった。
近隣ダムに設置されている消防艇も、土砂崩れによる道路通行止めにより使用不可。孤立化解消には最低1週間かかる見込み。
- 実施日時：【訓練前ワークショップ】 令和7年10月30日(木)14:00～16:00
【訓練】 令和7年11月13日(木)09:00～10:20
【訓練後ワークショップ】 令和7年11月13日(木)10:30～11:30
- 主催：上北山村
- アドバイザー：国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学高等研究院
環境社会共生体研究センター 小山 真紀 准教授
- 参加者：白川地区住民、村防災担当者 36名
- 訓練項目：ドローンによる情報収集訓練、避難誘導、住民の安否確認(情報収集)訓練、情報伝達訓練、簡易トイレの使い方訓練
- 訓練の特色：集落から離れた地点に位置した数軒の民家が災害時に孤立するおそれがあるため、有事の安否確認や救助要請の手法を検証した。
集落のなるべく多くの住民が衛星電話等の設置場所や使い方を理解できるよう訓練を実施した。

訓練の成果

【成果】

- これまで大きな災害がなかったが、今回の訓練により備蓄品、孤立した際の外部との連絡手段、地域住民との連携などを確認し、住民の防災意識が向上された。
- 事前に役場と住民がよく協議・説明されていたことで、訓練の目的や狙いが参加住民に浸透しており、ワークショップにおいて高齢者も含めて活発な議論がなされた。

【課題】

- ドローンによる情報収集訓練では村保有の小型ドローンを使用したがる、飛行可能範囲に制限があるなどの具体的な課題が抽出された。より大型のドローンなど別機種を追加購入することを検討している。
- 現時点では対象者はいないが、高齢化が進んでいる集落であるため、将来的に個別避難計画作成が必要となることを見据えて、継続的に訓練をしていく必要がある。
- 訓練成果を白川地区以外の集落に横展開し、村全体の災害対応力を向上させる必要がある。

10月30日(木) 14:00～16:00 訓練実施前ワークショップ

- 地域の災害リスクを正しく理解するとともに、避難生活を想像し、備える目的で実施。
- 高齢者が多いため、医薬品など食料以外の必需品も確保しておきたいという意見が挙がった。

▼上北山村による趣旨説明



▼グループワークショップでの意見交換



11月13日(木) 09:00～10:20 孤立集落状況把握・支援訓練

- 役場職員がドローンを活用して孤立住民の情報収集訓練を実施した。
- 住民間の安全確認を実施し、区長から役場に衛星電話で情報を伝達した。
多くの住民が使用できるように全体で使い方を確認した。
- 発煙筒・ライト、SOSを記載したブルーシート等を用いて、ドローンにメッセージを伝達した。

▼区長による衛星電話の使い方説明



▼使用したドローン



▼公民館前に避難する住民



▼テントと簡易トイレによるプライベート空間



▼住民による発煙筒の実践



▼ブルーシートにてSOSを作成



11月13日(木) 10:30～11:30 訓練実施後ワークショップ

- 各自で訓練を振り返り、今後の防災対策強化に向けて意見交換した。
- 防災倉庫や公民館の災害用備蓄品を把握した。

▼グループでの振り返り

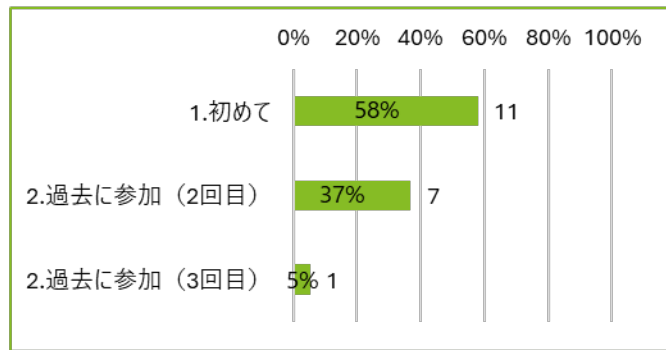


▼小山アドバイザーによる総括

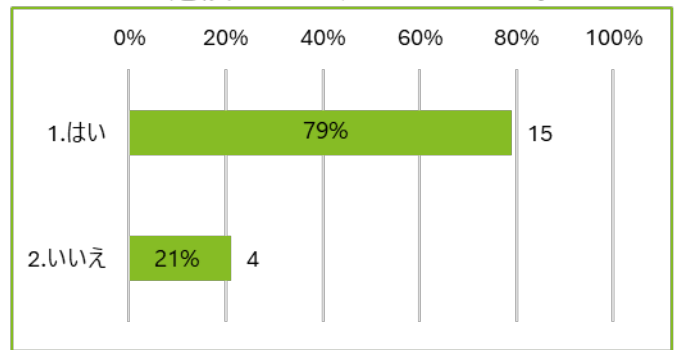


アンケート結果

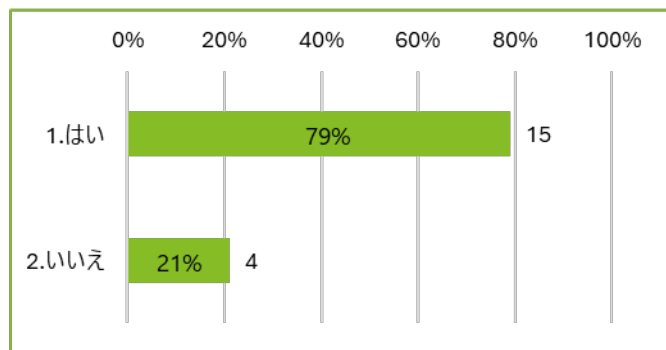
1. 地域の防災訓練に参加したのは初めてですか。



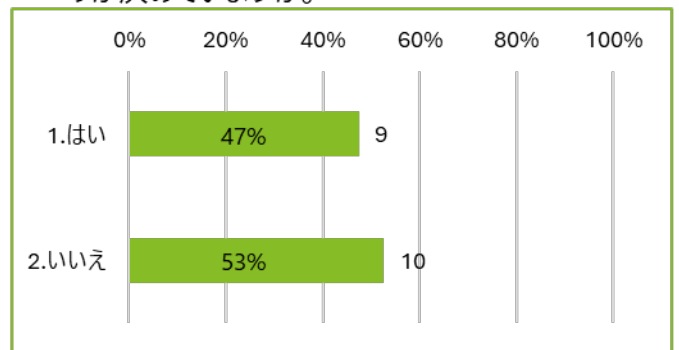
2. 地震が発生した際に、お住いの地域のどこに、どのような危険があるか、知っていますか。



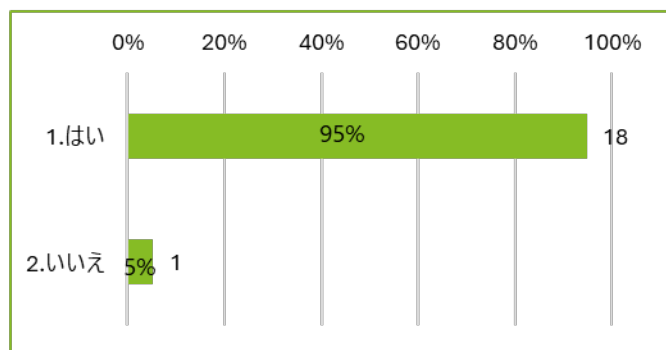
3. 自宅に3日以上の上備蓄品はありますか。



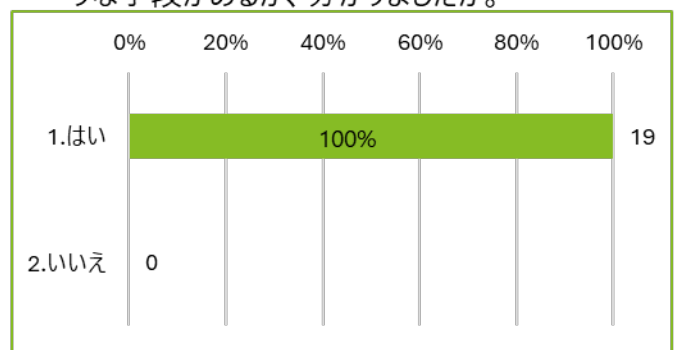
4. 災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うか決めてありますか。



5. 地震などの災害が発生した際に、地区での安否確認をどのように行うか分かりましたか。



6. 地震などの災害が発生し、固定電話や携帯電話が使用できない場合、助けを求めるにはどのような手段があるか、分かりましたか。



7. 今後、地域独自の防災訓練を実施する場合、市町からどのような支援があるとよいですか。

